

質問(植竹福二議員) トップアスリートを招聘してのスポーツ教室開催について伺います。

答弁(教育長) これまで本市では、大田原マラソン大会において有名選手を招聘してきたほか、日本プロサッカーリーグデヴィジョン2(J2)に所属し、宇都宮市をホームタウンとする栃木SCの選手によるサッカー教室を開催しています。また、日本女子ソフトボール部リーグを初めとする各種スポーツ競技のトッ

プ選手が参加するスポーツイベントの招致を積極的に行い、トップアスリートのプレーに触れ、子供から高齢者に至るまで誰もがスポーツを楽しめる機会を提供しています。

本年度は、プロバスケットボールチームリンク栃木ブレックスを所有する株式会社リンクスポーツエンターテインメントと新たに協定を結び、バスケットボールを軸とした交流を図り、バスケットボール競技の普及促進

植竹 福二議員
スポーツ振興対策について



こども医療費助成の窓口となる
国保年金課の医療助成係

を目的としたクリニックを開催していくほか、自転車ロードレースの地域密着型プロチームであります那須ブラーゼンとも、今後協定書の締結に向けた協議を進めています。

また、実施に至りませんでした。財団法人日本相撲協会の少年相撲教室派遣事業への応募も行ってききました。

今後、トップアスリートを積極的に招聘し、スポーツ教室やクリニックの開催をおして、スポーツ人口の拡大や各種競技のレベルアップを図るとともに、市民1人1スポーツ推進に取り組みんでいきたいと思っております。

象年齢を18歳まで引き上げました。一般的に現物給付年齢の引き上げは、窓口での申請手続がなくなり利便性が高まるなど、申請者の負担は減りますが、一方で、安易に医療機関で受診する、いわゆるコンビニ受診の増加により各被用者保険の保険給付が増加することなどの懸念があると言われております。本市では郵送による申請手続のPRや大田原市のホームページから申請書をダウンロードできるようにするなど

質問(大豆生田春美議員) 県内の自治体において現物給付に向けて動き出している自治体があることや償還払いの申請手続をしないで済む現物給付を望む声が高まってきています。現物給付を行えば、国からのペナルティーなどがあると思われませんが、こども医療費の現物給付について市の考えを伺います。

答弁(市民生活部長) 本市では、平成24年10月から、償還払いであります。こども医療費助成の対

改善をしてきました。医療費助成に要する費用は、栃木県の医療費補助金交付要領により、市町には補助率2分の1の補助金が交付されますが、県の基準を超えて現物給付を取り入れている市町に対する補助率は4分の1と減額されます。また、国から国保に対する補助金のペナルティーがあることから、国県の制度改正を切に望んでいます。

こども医療費助成は、住む地域によって格差がなく、全国どの地域でも同じ制度であることが求められますが、自治体の財政力によって子供を育てる親の負担に違いがないよう今後も引き続き国、県に要望してまいります。

大豆生田 春美議員
こども医療費助成について



リンク栃木ブレックスと協定締結